

5歳児 Ⅰ期（4月～5月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 自分の好きな遊びや興味・関心をもった事柄を見つけて関わり、楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とゆったりとした関わりを楽しむ。

- ◎ 年長になった喜びや自信を味わいながら、園生活を楽しむ。
- ◎ 積極的に戸外に出て、全身を使って遊び、春の自然に触れる。
- ◎ 友達と思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。

内容・活動等

- 自分の居場所を見付け、安心して過ごせる場所であることを知り、安心して過ごす。
- 生活や遊びの中にきまりがあることを知り、守ろうとする。
- 遊具や場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを十分に楽しむ。
- どんな遊びができるかが分かり、楽しみにする。
- 友達や保育者に分かるように、自分の思いや気持ちを伝えようとする。
- 友達の思いを聞こうとしたり、友達が行っていることに気付いたりする。
- 預かり保育担当の保育者に親しみを持ち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。

- 生活の流れや仕方が分かり積極的に行動する。
- 友達と一緒に全身を使って様々な遊びを楽しむ。
- 友達と一緒に好きな遊びをする。
- 積極的に戸外へ出て、春の自然や季節の変化に興味をもつ。
- 保育者や友達の話聞いて、理解しようとする。
- 自分がやりたいことや困っていることを、保育者や友達に言葉で伝える。
- 異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりして親しみをもつ。
- 午睡の時間の過ごし方を考え、十分に体を休めることの大切さを知る。

- ◆ 教育活動の様子など幼児の一日の過ごし方に配慮しつつ、幼児の気持ちに寄り添いながら無理のない活動内容を考える。
- ◆ 物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、所持品の置き場所に目印を付けたり、遊具や用具の場所に表示を付けたりするなど、環境を工夫する。（絵や写真を利用した表示をするなど）
- ◆ 天候や幼児の興味・関心に応じて戸外、室内の遊びが並行して行えるように環境設定をする。

◇ 環境構成

- ◇ 保育室を明るく、家庭的な雰囲気を整え、新しい生活環境に安心感をもてるようにする。
- ◇ ござやつい立てを利用したコーナー設定を行い、リラックスできたり、一人で過ごせたりする空間を作っていく。安全に配慮して整備する。
- ◇ ゆったりと安心して過ごせるように、慣れ親しんでいる遊具、用具を用意する。
- ◇ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示したり、一人一人のペースに合わせた時間を確保したりする。

- ◇ ゆったりと過ごせるコーナーや友達と一緒に遊べるコーナーを設定する。
- ◇ 幼児と共に生活の場を作っていくことを大切にし、その過程を通して5歳児になった充実感もてるようにする。
- ◇ 生活の流れを幼児と確認しながら、変わったところは丁寧に指導していく。生活の流れや時間については自分で気付き行動できるように、決まった時間ややり方を知らせる。
- ◇ 伸び伸びと安定した気持ちで生活できるように、一人一人の気持ちを受け止め、ゆとりをもてる時間を設定する。
- ◇ 午睡の場所を決め、安心して休息できるようにする。

5歳児

指導計画例
教育活動後の期ごとの

預かり保育

長時間保育

| | | |
|----------|---|---|
| ☆ 保育者の援助 | <ul style="list-style-type: none"> ★ 5歳児になり張り切って生活する姿を見守るとともに、甘える姿も受け止める。 ★ 活動を通して一人一人との触れ合いを大切に、信頼関係を育てていく。 ★ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られた時は、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。 ★ 生活の流れの切り換えについて、幼児の様子を見ながら声掛けしたり、手助けしたりすることで、自分でできることは自分でやっていけるように援助し、幼児が自分でできた喜びを味わえるようにする。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 預かり保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の健康や体について関心をもち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気付き理解できるよう、援助する。 ☆ 一人一人の生活を見守り、自分でできるように援助をする。 ☆ 保育者が一緒に遊び、体を動かすことの楽しさを共感する。 ☆ 一人一人の気持ちをしっかり受け止め、信頼関係を築き、情緒の安定を図る。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| △ 保育者間の連携 | <ul style="list-style-type: none"> ▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方（記入の方法、回覧の方法など）について、年度当初に保育者間で共通理解する。 ▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間をもち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。 ▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることが予想される。保育者は、保育に関わる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> △ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者に密に申し送りをする。 | <ul style="list-style-type: none"> △ 進級して環境が変わるので、移行の方法（幼児の身支度の仕方、保育者の動きなど）を、保育者間で共通しておく。 △ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のもち方や移行時間など）について保育者間で話し合う。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| □ 保護者との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることを促す。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> □ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動時の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動での様子や長時間保育で楽しく過ごしている様子を伝える。 □ 環境が変わり、不安を感じる保護者もいるので、話を聞いて不安を受け止めたり、園での様子を具体的に知らせたりする。 □ 就学に向け、午睡をしない生活への移行が円滑にできるように、家庭での生活リズムや状況等を把握し、休日の午睡や生活リズムについて保護者とともに考える。 |

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 自分の居場所や安心して過ごせる場所を見つけ安心して過ごしつつ、自分のことは自分で行う。
- ◎ 室内外で友達と体を動かして遊ぶ。
- ◎ 友達とのつながりを深め、思いを伝え合いながら遊びを進める。

- ◎ 活動と休息のバランスを考え、元気に過ごせるようにする。
- ◎ 自分の力を十分に発揮して、活動や遊びに取り組む。
- ◎ 友達とのつながりを深め、夏ならではの遊びを楽しみ、試したり考えたりして遊ぶ。

内容・活動等

- 預かり保育の保育者との信頼関係ができ、安心して過ごせる場所だということを知り、預かり保育で遊ぶことを楽しむ。
- 生活の流れを覚え、自分でできることを自分でやろうとする。
- 好きな遊びを見つけ、自分なりのペースや楽しみ方で過ごす。
- 戸外や室内で体を動かして遊ぶ。
- やってほしいことややってみたいことを保育者に言葉で伝え遊ぶ。
- 遊びや生活を通して友達との関わりを深めていく。
- 友達とのつながりを感じながら遊び、互いに自分の考えや気持ちを表したり相手の話を聞いたりする。

- 水分補給に気を付け、活動と休息のバランスを考え、元気に過ごす。
- 自分で気付き、汗を拭いたり衣服の調節をしたりする。
- 戸外で友達と水に触れたり、シャボン玉や虫取りをしたりするなど、夏ならではの遊びを楽しむ。
- 様々な素材を使って、友達と一緒に作ったり表現したりする。
- 意見の違いがあっても、友達の気持ちや考えを知り、分かろうとする。
- 友達と相談しながら、様々な遊びを考えたり、生活を進めたりする。
- 身近な昆虫や動植物に関心をもち、栽培や飼育を通して命の大切さを知る。
- 午睡の時間が体を休める大切な時間であることに気付き、体を休める。

◇ 環境構成

- ◆ 水遊びやプール活動などの教育活動を考慮し、ゆったり過ごせるような環境や遊びを設定する。
- ◆ 気温や天気、その日の運動量などを考慮し、戸外活動や遊戯室を利用した運動的な遊びとゆったり過ごせる環境を用意する。
- ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成するとともに安全にも配慮する。
- ◆ 個々の興味に合わせてじっくりと取り組んだり、幼児が主体的に遊びに取り組んだりできるように、環境設定や時間の確保を行う。
- ◆ 環境設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でしようという気持ちを育てていく。

◇ 慣れ親しんでいる玩具、用具を用意し、様子を見ながら新しい遊びを取り入れ、楽しめるように工夫する。

- ◇ 一人一人が好きな遊びをじっくり楽しんでいけるように玩具や遊びの内容を考え、用意しておく。家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるような環境作りを心掛ける。
- ◇ 午睡は、眠れない幼児への対応（休息の取り方や午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、就学に向けて無理のない計画を立てる。

5歳児

指導計画例
教育活動後の期ごとの

預かり保育

長時間保育

| | | |
|----------|---|--|
| ☆ 保育者の援助 | <ul style="list-style-type: none"> ★ 生活に慣れ、思わぬ行動を取ったり、友達間のトラブルが起こったりするので、一人一人の気持ちを受け止め、友達との関わりを楽しめるように仲立ちをする。 ★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ★ 幼児が生活の流れを意識できるように声掛けし、それに気付き、自分から行おうとする姿を認める。 ★ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら温かな雰囲気の中で友達との関わりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じられるように配慮する。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 自分の健康や体について関心をもち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気付き、自分でできるように援助する。一人一人の幼児の状況を見極め、幼児の姿や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 夏に経験したことを話したい気持ちを受け止め、一人一人の話を丁寧に聞き、楽しさに共感したり友達と話すきっかけをつくらせたりする。また、みんなの前で話をし、聞いてもらった喜びを感じられるような時間を設ける。 ☆ 午睡時に眠れない幼児に対して、眠らなくても体を休めることが大切であることを個別に知らせる。 |

| | | |
|-----------|---|---|
| △ 保育者間の連携 | <ul style="list-style-type: none"> ▲ プール・水遊びの予定や内容など、教育活動中の保育内容について情報を共有し、一日の中で静と動のバランスを考える。 ▲ 梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。 ▲ 夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。 ▲ 夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> △ 他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。 △ 個々の幼児の様子を把握し、午睡のもち方や移行時間などについて保育者間で話し合う。 |

| | | |
|-----------|--|---|
| □ 保護者との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 降園時の話やクラス便りを通して、幼児の姿や成長、友達関係の広がりについて知らせる。 ■ 汗をかいたり水遊びをしたりして着替えが多くなるので、自分で着脱できる衣類の準備、記名、衣類の補充などを依頼する。 ■ プール・水遊びに際して、プールカードなどを活用し、家庭と連絡を取り合い、健康状態に十分に留意する。 ■ 夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらう。 ■ 休み中の様子や経験したことを保護者から聞いたり、園での様子を伝えたりする。保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を見ることを促す。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> □ 夏季休業中、夏季休業前後も安心して利用してもらえるよう、一日の流れや持ち物などを丁寧に説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 友達への関心が高まる時期であることを踏まえ、トラブルの状況や対応を丁寧に知らせる。 □ 休み明けは、一人一人の実態に応じて生活リズムを取り戻せるように各家庭に協力を求める。 □ 午睡や休息状況を個別に知らせる。 |

5歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活や遊びのきまりを思い出しながら気持ちよく生活し、自分でできることを進んでやってみようとする。
- ◎ 友達との関わりを大切にしながら好きな遊びをじっくりと楽しむ。

- ◎ 気温の変化に合わせて環境を整え、健康に過ごせるようにする。
- ◎ 戸外で十分に体を動かし、友達と一緒に遊びや生活を展開する楽しさを味わう。
- ◎ 共通の目的に向かって、友達と工夫したり考えたりして自分たちで活動を進める。

内容・活動等

- 生活の流れやきまりを思い出し、自分でできることを進んで行く。
- 好きな遊びを友達と楽しむ。
- 秋空の下で心地よさを感じながら、体を動かし、友達と遊びを発展させる。
- 遊びや生活の中で自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の気持ちにも気付こうとする。
- 自分の気持ちや思っていることを言葉で伝えたり、相手の話を聞くことしたりする。
- 友達や保育者に自分の思いや気持ちを分かるように伝えながら遊ぶ。

- 季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、気温の変化に合わせて環境を整え、健康に生活できるようにする。
- 活動や遊びのバランス、体の疲れを考慮して生活しようとする。
- 進んで戸外に出て遊び、友達と考えた遊びのルールを守って、思いきり体を動かして遊ぶ。
- 目的をもって友達と一緒に作ったり、描いたりする。
- 友達の頑張っている姿を応援したり、できるようになったことを共に喜び合ったりする。
- ルールのある遊びを友達と楽しみ、相談したり力を合わせたりする。
- 異年齢児に遊びを教えたり、頼られる楽しさを実感したりする。
- 午睡の時間が短くなったり、なくなったりすることを知り、自分で休息をとろうとする。

◇ 環境構成

- ◆ 運動的な活動が増える時期なので、教育活動の内容・運動量や一人一人の様子を把握し、落ち着いてゆったりと過ごせる環境を設定する。
- ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成しながら安全にも配慮する。
- ◇ つい立てなどを活用し、一人になれるコーナーを作り、自分のペースやゆったりと過ごせる空間を作る。
- ◇ 環境の設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でやろうという気持ちを育てていく。
- ◇ 個々の様子を見ながら遊びの計画を立て、幼児自身が選択できるようにする。
- ◇ 教育活動の内容や一人一人の健康状態に応じて休息や午睡時間を考える。
- ◇ じっくりと物作りに取り組める環境や時間設定を考える。できあがった満足感や達成感を味わえるようにし、遊びが継続できるように製作途中の物の置き場や約束事を幼児と考える。
- ◇ 雲の様子や木の葉の色の変化、木の実など幼児の気付きに共感し、気付きを話題にする。季節の移り変わりや不思議さに関心がもてるように、絵本や図鑑などの環境を用意し、保育者も一緒に楽しむ。
- ◇ 自分で生活のイメージや見通しをもって生活できるようにする。
- ◇ 午睡は、眠らない幼児への対応（午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、個々の様子を詳細に把握し、無理のない計画を立てる。

5歳児

教育活動後の期ごとの指導計画例

預かり保育

長時間保育

| | | |
|-------------|--|--|
| ☆ 保育者の援助 | <p>★ それぞれのペースに合わせて生活のリズムを取り戻し意欲的に生活できるように活動の流れを分かりやすく知らせる。また、生活に必要なことに気付いて自分でやろうとしている姿勢を認めるとともに、友達のを知らせ、互いに認め合うことができるよう働き掛ける。</p> <p>★ 生活や遊びの場面で、行ってよいことといけないことや、今何をするときかを自ら考えられるよう、言葉掛けをする。</p> | |
| | <p>☆ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら、温かな雰囲気の中で友達との関わりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じることができるように配慮する。</p> <p>☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。</p> | <p>☆ 友達との関わり合いの様子を見守り、それぞれが考えていることや気持ちを保育者が丁寧に受け止める。幼児同士で上手く話が見つかなかったときには保育者が一緒に原因を探り確かめながら、互いの考えや思いを出し合えるように援助する。</p> <p>☆ 気温の変化や活動によって衣服を調節する必要性や手洗い、うがいの大切さを知らせ、健康に過ごせるようにする。</p> |

| | |
|--------------|--|
| △ 保育者間の連携 | <p>▲ 運動会へ向けたねらいを明確にするとともに、運動会終了後から修了へ向けての成長の道筋について共通理解するため、保育者間で話し合う機会をもつ。</p> <p>▲ それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。</p> <p>▲ 運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。</p> |
|--------------|--|

| | | |
|--------------|---|---|
| □ 保護者との連携 | <p>■ 運動会のねらいや取組の過程について、クラス便りや掲示などを通して保護者に伝える。</p> <p>■ 気候の状況や園での生活の様子などを伝え、衣類の種類や数を考慮して準備してもらうよう依頼する。</p> | <p>□ 午睡なしの日を設定するにあたり、園での様子や今後の予定を伝えるとともに、家庭での幼児の体調や状況を聞き取り把握する。</p> |
|--------------|---|---|